

平成29年 千葉県鉱工業指数年報の概況 (平成22年基準)

短期経済観測の資料とするため、毎月「千葉県鉱工業指数月報」を発行し、鉱工業の生産・出荷・在庫・在庫率指数を公表しております。このたび、年間補正及び季節指数の改定を行った上で、平成29年の1年間の動向を年報として公表しましたので紹介します。

統計課 工業班
電話 043-223-2227

概況

— 生産・出荷・在庫・在庫率ともに低下 —

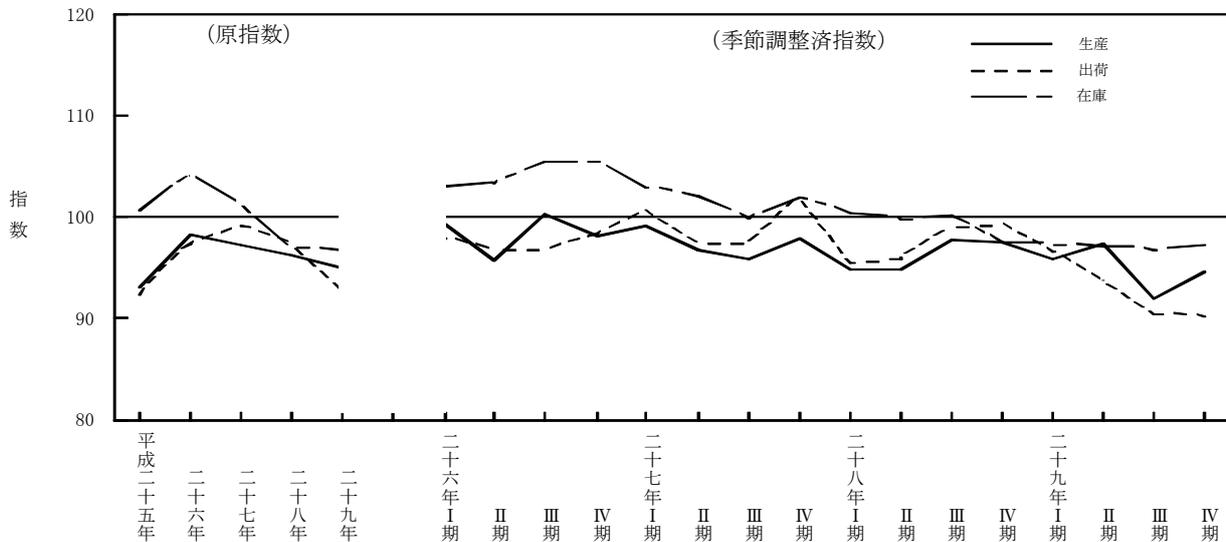
平成29年の千葉県鉱工業指数をみると、生産指数は、95.0で前年比△1.2%と3年連続の低下、出荷指数は、92.7で同△4.8%と2年連続の低下、在庫指数は、96.8で同△0.2%と3年連続の低下、在庫率指数は、120.8で同△14.9%と4年ぶりの低下となりました。

平成29年を四半期別にみると、生産指数は、Ⅰ期・Ⅲ期が低下、Ⅱ期・Ⅳ期が上昇となりました。出荷指数は、Ⅰ期からⅣ期が低下となりました。在庫指数は、Ⅰ期・Ⅱ期・Ⅲ期が低下、Ⅳ期が上昇となりました。在庫率指数は、Ⅰ期・Ⅱ期・Ⅳ期が低下、Ⅲ期が上昇となりました。

平成29年の生産と在庫の関係を在庫局面でみると、Ⅰ期・Ⅱ期は「在庫積み増し局面」に位置し、Ⅲ期・Ⅳ期は「在庫調整局面」に位置しました。

(第1図・第2図・第1表参照)

第1図 千葉県鉱工業指数の推移 (平成22年=100.0)

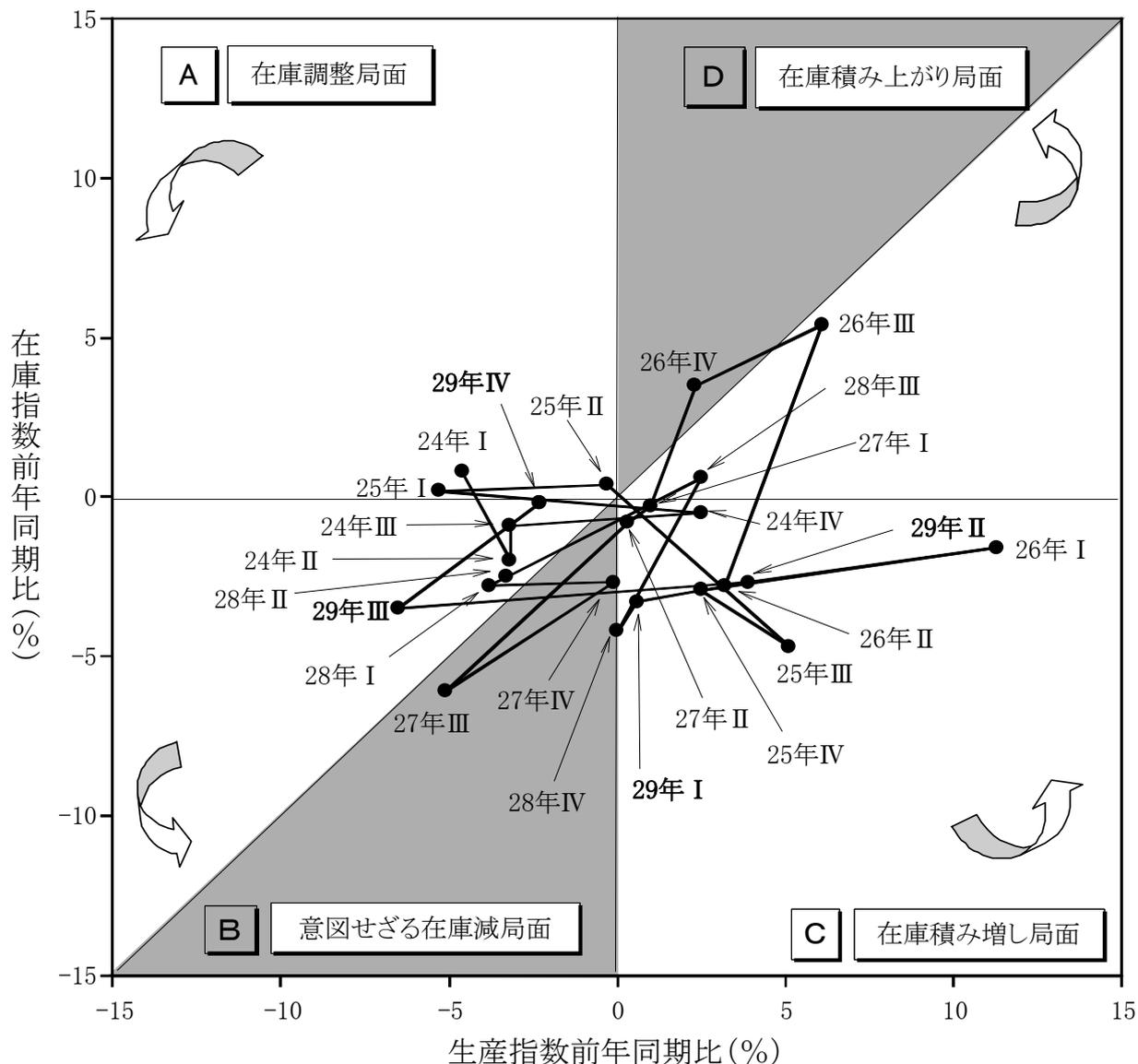


第1表 千葉県鉱工業指数及び前年比・前期比増減率

年・期 指数	25年	26年	27年	28年	29年	29年			
						Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅳ期
						(1~3月)	(4~6月)	(7~9月)	(10~12月)
生産指数	93.1	98.3	97.3	96.2	95.0	95.8	97.4	91.9	94.6
前年比・前期比(%)	0.5	5.6	△1.0	△1.1	△1.2	△1.7	1.7	△5.6	2.9
出荷指数	92.3	97.4	99.2	97.4	92.7	96.6	93.7	90.4	90.2
前年比・前期比(%)	△0.2	5.5	1.8	△1.8	△4.8	△2.7	△3.0	△3.5	△0.2
在庫指数	100.6	104.1	101.3	97.0	96.8	97.3	97.1	96.8	97.3
前年比・前期比(%)	△2.9	3.5	△2.7	△4.2	△0.2	△0.2	△0.2	△0.3	0.5
在庫率指数	112.3	118.1	128.9	141.9	120.8	127.6	118.4	124.9	112.4
前年比・前期比(%)	△4.8	5.2	9.1	10.1	△14.9	△16.5	△7.2	5.5	△10.0

※暦年指数値は原指数、四半期指数値は季節調整済指数

第2図 生産・在庫の関係と在庫局面(在庫循環図)



各在庫局面の説明

- A** 「在庫調整局面」 ……在庫過剰のため、生産を抑えて在庫を調整する。(景気後退期)
- B** 「意図せざる在庫減局面」 ……需要が回復し始めるが、生産は停滞しており、在庫が減少する。(景気拡大初期)
- C** 「在庫積み増し局面」 ……需要が供給より多くなると、生産を拡大し、在庫を積み増して需要に対応する。(景気拡大期)
- D** 「在庫積み上がり局面」 ……供給が需要より多くなると、在庫過剰になり在庫の積み上がりが起きる。(景気後退初期)

(1) 生産の動向

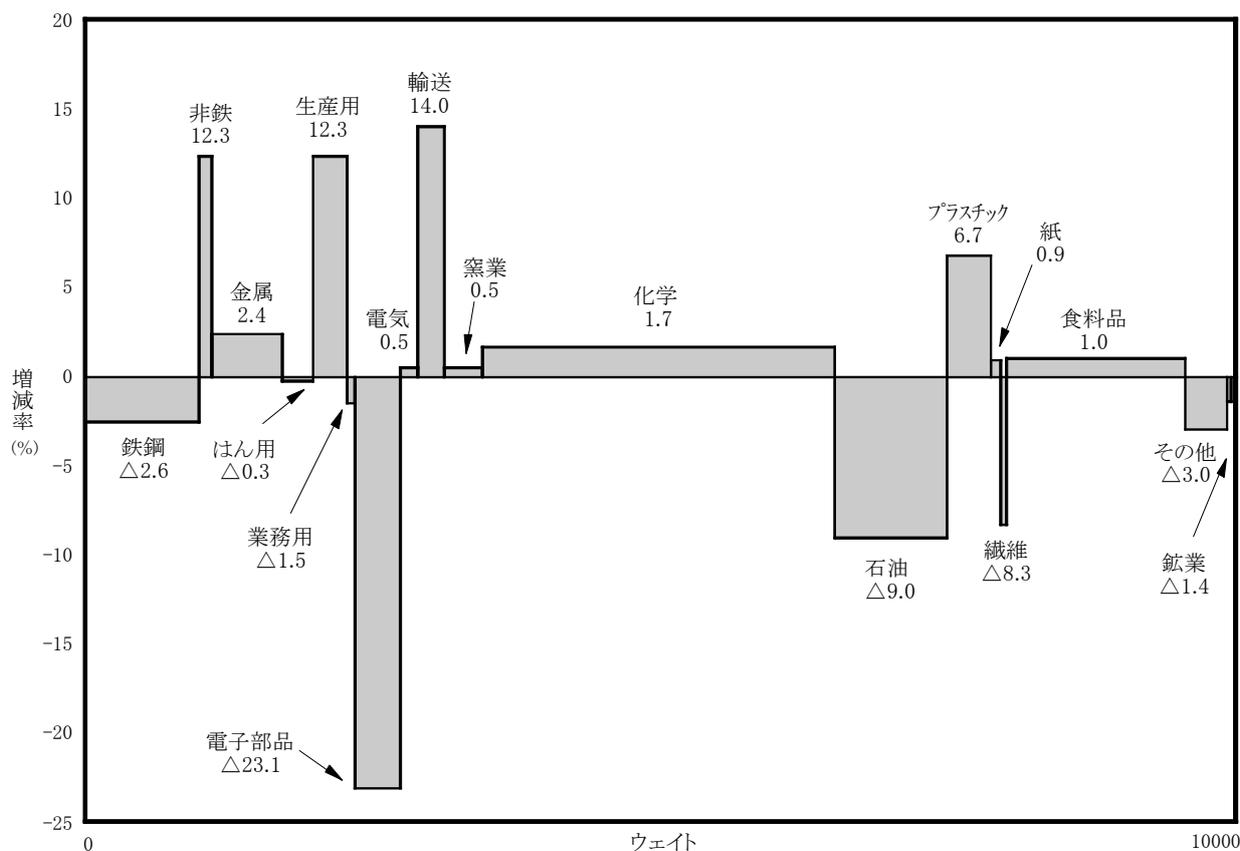
— 10業種が上昇, 8業種が低下 —

平成29年の生産指数は、95.0で前年比△1.2%と3年連続の低下となりました。

業種別にみると、輸送機械工業（前年比14.0%）、非鉄金属工業（同12.3%）、生産用機械工業（同12.3%）等10業種が上昇し、電子部品・デバイス工業（同△23.1%）、石油・石炭製品工業（同△9.0%）、繊維工業（同△8.3%）等8業種が低下しました。

（第3図参照）

第3図 業種別生産指数の前年比増減率



1. 横軸は業種別ウェイトの構成比，縦軸は各業種の生産指数の前年比増減率を表している。
2. グラフ中の数値は，各業種の前年比増減率である。
3. グラフ中の面積（部分）は，各業種の大きさが指数全体の増減率に与える影響を表している。
4. グラフ中の業種名は，次のとおり略している。

[鉄鋼]…鉄鋼業 [非鉄]…非鉄金属工業 [金属]…金属製品工業 [はん用]…はん用機械工業
 [生産用]…生産用機械工業 [業務用]…業務用機械工業 [電子部品]…電子部品・デバイス工業
 [電気]…電気・情報通信機械工業 [輸送]…輸送機械工業 [窯業]…窯業・土石製品工業
 [化学]…化学工業 [石油]…石油・石炭製品工業 [プラスチック]…プラスチック製品工業
 [紙]…紙・紙加工品工業 [繊維]…繊維工業 [食料品]…食料品工業 [その他]…その他工業

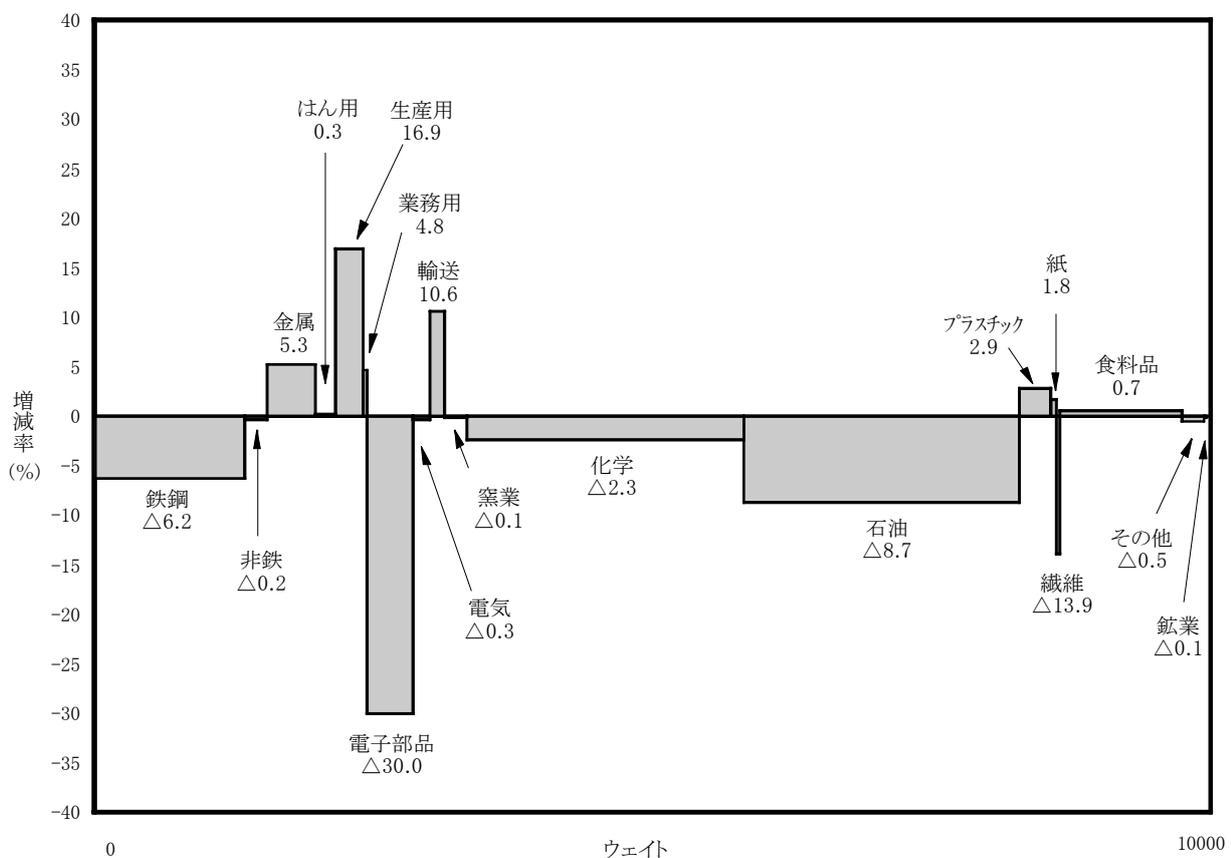
(2) 出荷の動向

— 8業種が上昇, 10業種が低下 —

平成29年の出荷指数は、92.7で前年比 Δ 4.8%と2年連続の低下となりました。
業種別にみると、生産用機械工業（前年比16.9%）、輸送機械工業（同10.6%）、金属製品工業（同5.3%）等8業種が上昇し、電子部品・デバイス工業（同 Δ 30.0%）、繊維工業（同 Δ 13.9%）、石油・石炭製品工業（同 Δ 8.7%）等10業種が低下しました。

（第4図参照）

第4図 業種別出荷指数の前年比増減率



1. 横軸は業種別ウェイトの構成比，縦軸は各業種の出荷指数の前年比増減率を表している。
2. グラフ中の数値は，各業種の前年比増減率である。
3. グラフ中の面積（部分）は，各業種の大小が指数全体の増減率に与える影響を表している。
4. グラフ中の業種名は，次のとおり略している。

[鉄鋼]…鉄鋼業 [非鉄]…非鉄金属工業 [金属]…金属製品工業 [はん用]…はん用機械工業
[生産用]…生産用機械工業 [業務用]…業務用機械工業 [電子部品]…電子部品・デバイス工業
[電気]…電気・情報通信機械工業 [輸送]…輸送機械工業 [窯業]…窯業・土石製品工業
[化学]…化学工業 [石油]…石油・石炭製品工業 [プラスチック]…プラスチック製品工業
[紙]…紙・紙加工品工業 [繊維]…繊維工業 [食料品]…食料品工業 [その他]…その他工業

(3) 在庫の動向

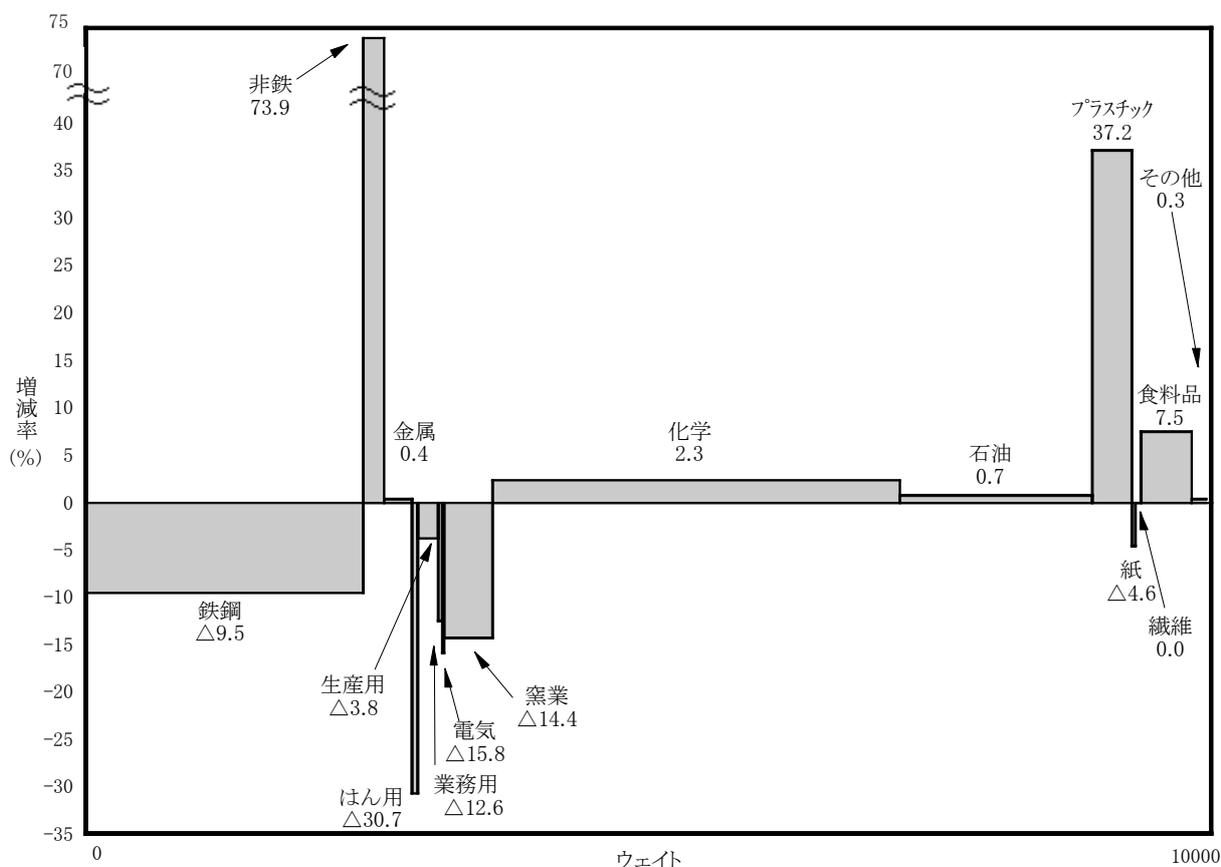
— 7業種が上昇, 7業種が低下 —

平成29年の在庫指数は、96.8で前年比 $\Delta 0.2\%$ と3年連続の低下となりました。

業種別にみると、非鉄金属工業（前年比73.9%）、プラスチック製品工業（同37.2%）、食料品工業（同7.5%）等7業種が上昇し、はん用機械工業（同 $\Delta 30.7\%$ ）、電気・情報通信機械工業（同 $\Delta 15.8\%$ ）、窯業・土石製品工業（同 $\Delta 14.4\%$ ）等7業種が低下しました。

（第5図参照）

第5図 業種別在庫指数の前年比増減率



1. 横軸は業種別ウェイトの構成比、縦軸は各業種の在庫指数の前年比増減率を表している。
2. グラフ中の数値は、各業種の前年比増減率である。
3. グラフ中の面積（部分）は、各業種の大小が指数全体の増減率に与える影響を表している。
4. グラフ中の業種名は、次のとおり略している。

[鉄鋼]…鉄鋼業 [非鉄]…非鉄金属工業 [金属]…金属製品工業 [はん用]…はん用機械工業
 [生産用]…生産用機械工業 [業務用]…業務用機械工業 [電気]…電気・情報通信機械工業
 [窯業]…窯業・土石製品工業 [化学]…化学工業 [石油]…石油・石炭製品工業
 [プラスチック]…プラスチック製品工業 [紙]…紙・紙加工品工業 [繊維]…繊維工業
 [食料品]…食料品工業 [その他]…その他工業

利 用 上 の 注 意

1 基準時

平成22年(2010年)を基準年としています。

指数値は、平成22年=100.0とした数量指数で表示し、ウェイトは平成22年の産業構造によって算出しています。

2 用語の表示

「鉱工業生産指数」, 「鉱工業生産者出荷指数」, 「鉱工業生産者製品在庫指数」, 「鉱工業生産者製品在庫率指数」をそれぞれ「生産指数」, 「出荷指数」, 「在庫指数」, 「在庫率指数」と略記しています。

また、「1~3月期」, 「4~6月期」, 「7~9月期」, 「10~12月期」をそれぞれ「Ⅰ期」, 「Ⅱ期」, 「Ⅲ期」, 「Ⅳ期」と略記しています。

3 指数値等の表示方法

(1) 指数値は、暦年別及び四半期別に算出し、表示しています。

(2) 暦年指数値及び前年比は、原指数によって算出し、表示しています。

(暦年指数値は、1~12月各月の平均指数値です。ただし、在庫指数は、年末の指数値です。)

(3) 四半期指数値及び前期比は、季節調整済指数によって算出し、表示しています。

(四半期指数値は、期内各月の平均指数値です。ただし、在庫指数は、期末の指数値です。)

(4) 各数値の掲載単位未満は、すべて四捨五入しています。